



たかみ

北九州市立高見中学校 学校通信
 平成27年11月11日 特集号
 発行責任者 校長 丸山誠吾
 学校所在地 八幡東区高見四丁目4番1号
 TEL 093-651-1886 FAX 093-651-1899

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

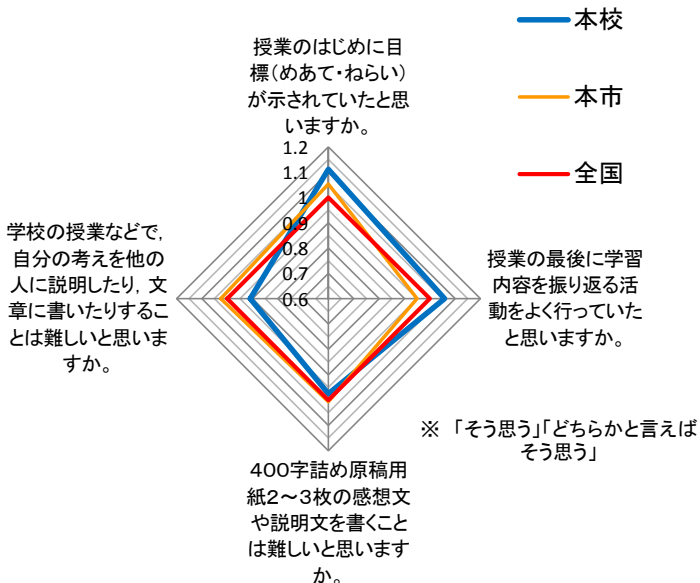
① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	・ 全国平均正答率を上回っていたが、文脈に即して漢字を書く問題や、手紙の書き方を理解して書く問題にやや課題が見られる。	全国平均正答率との比較 上回っている
国語B	・ 全国平均正答率を下回っていたものの、無解答率もすべての問題で全国平均より低い。資料から適切な情報を読み取ることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
数学A	・ 全国平均正答率と同じであるが、図形に関する基本的事項を理解を問う問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 同じである
数学B	・ 「関数」領域では、全国平均を上回っているものの、他の3領域が全国平均を下回っており、全体として全国平均より低い。また、無答率も全国平均より高くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている。
理科	・ 全国平均をわずかだが、上回ることができた。記述式問題に対しても、苦手意識をもち、粘り強く取り組むことができた。	全国平均正答率との比較 上回っている

② 学校における学習状況に関する調査結果と分析

・ 本校では、各教科の授業の中で、本時の「めあて」と「まとめ」を板書で示す等、「ねらい」を明確にする授業の導入段階づくり、「振り返り」で生徒にその時間の学習内容を理解させる授業の終末段階づくりに取り組んで入る。その成果が調査結果に表れている。今後とも継続して、生徒が「わかる授業」づくりに取り組んでいきたい。

・ 自分の考えを言葉や文章で表現することや感想文や説明文を書くことが苦手だと感じている生徒が多い。自分の考えをまとめる・述べる活動、相手の意見を聞く活動(資料やデータ等を基に説明する話し合い活動など)を積極的に授業に取り入れていく必要がある。

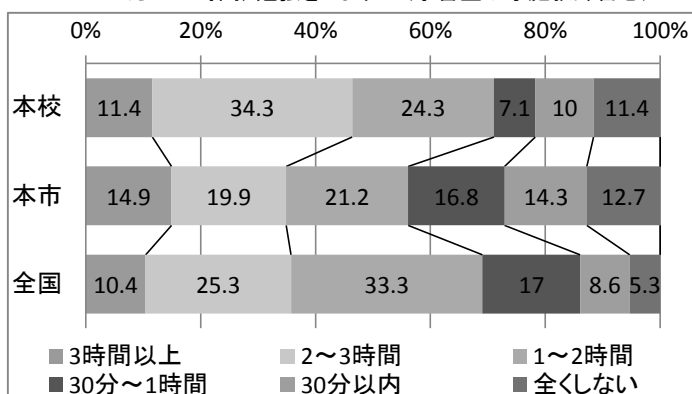


2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

- ・ 週1回以上図書室を利用する生徒の割合が全国平均より高く、図書館の利用率も高い。今後とも、図書室、図書コーナーの有効活用を図り、読書活動の推進を図っていきたい。
- ・ 平日に家で学習に取り組んでいる生徒の割合は、全校平均と比べてやや高いが、休日に取り組んでいる生徒の割合はやや低い。課題の出し方を工夫するとともに、家庭学習への具体的な取り組み方の指導を行い、家庭学習の質・量ともに充実させることによって、学力の向上を図りたい。



② 生活習慣等に関する調査結果と分析

- ・ 「自分にはよいところがある」と思っている生徒の割合が全国平均より高く、自己肯定感の高い生徒が多い。今後とも、この傾向を続けていくためにも、学校・家庭・地域が連携した取組を継続していくことが必要である。
- ・ 子どもの夢をもっている生徒が多く、夢の実現を図るためにキャリア教育(進路指導)を推進し、具体的な目標設定や進路選択に結び付けるための取組を充実させる必要がある。
- ・ 普段、1日当たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が3時間以上の長時間利用の割合が増えている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 基礎的・基本的な学習内容の徹底した定着
 - ・ 日々の宿題は、教科担任が提出の有無、内容等を点検した後生徒に返却する。長期休業日中の課題等については、係の生徒が回収し、提出の有無を調べた後、担任が確認。その後、教科担任が内容を点検し、生徒に返却する。未提出が続く場合は、教科担任や担任から提出を促すなど、提出物の徹底を図る。
 - ・ 日々の授業での、本時の学習の「めあて」と「まとめ」を板書で示す等、学習の「ねらい」を明確にする授業の導入段階、「振り返り」で、生徒にその時間の学習内容を理解させる授業の終末段階づくりを通した、生徒が「わかる授業」づくりの継続的な推進。
- 校内研究の計画的な推進
 - ・ 研究主題「基礎的・基本的な知識・技能を活用する(思考力・判断力・表現力)を高めるための言語活動の在り方の研究」を踏まえた、考える力や知識・技能を活用する力をはぐむ授業づくり ～各教科の特性を踏まえた取組の工夫～
 - ・ 研究を推進するために、若年教師や講師による公開授業、教科間や教科の枠を超えた授業交流を実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭学習スタンダード化プロジェクト」～自己調整学習の取組～
 - ・ 家庭学習の取組について、生活ノートを活用した以下のような取組を行い、生徒が自分の学習を自分で計画し、実行し、振り返り(自己調整学習を行い)家庭学習の質・量の向上を図る。
 - ① 週の初め(月曜日等)に、生徒が各自で朝自習の時間を活用して、その週の家庭学習の目標を定め・計画を立てる。
 - ② 日々の家庭学習で実行した内容を記録していく。
 - ③ 次週の初め(月曜日等)に、前週の家庭学習を振り返って反省を記録するとともに、次週の目標・計画づくりに役立てる。
 - ④ 毎週、学級担任による点検を行うとともに、保護者にも検印と一言をもらう。
- 「家庭学習定量化プロジェクト」～『宿題・課題取りまとめ表』の活用～
 - ・ その週に出ている宿題・課題を一覧で見ることができるよう、教科担任や学習委員、教科係等が記入し

たA3版の『宿題・課題とりまとめ表』を教室内に掲示する。そして、日々の宿題を生徒が意識できるようにして、宿題忘れや提出物忘れ等を防止するとともに、教師が現在、生徒に出ている宿題・課題の全体量を把握して、宿題・課題の質・量ともに調整ができるようにして、可能な限り家庭学習の定量化を図る。

○「保護者と生徒で読む新聞コラム」～NIEの取組を活用した家庭学習課題～

・ 数日分の新聞コラムをまとめて印刷したものを読み、その中から最も気になったものについて、その感想やコラムに対する意見をまとめる課題を通して、「自分の考えを言葉や文章で表現する」ことや、「感想文や説明文を書く」ことに慣れさせ、苦手意識を軽減するとともに、保護者と生徒間の共通話題づくりをし、自己肯定感の醸成を図る。

○「保護者への啓発」

・ 全国学力・学習状況調査の結果、明らかになった課題や取組等を保護者へ周知し、学校と家庭が連携・協力して学力向上と進路の実現に向けて取り組めるようにする。

① 広報・連絡物(学校だより、学年だより、学級だより等)を定期的、必要に応じ臨時に配布し保護者への啓発に務める。

② 学校ホームページを毎月更新し、新しい情報の提供や啓発に務める。

○「家庭学習チャレンジハンドブック」等の活用

・ 学活の時間を利用して、担任が家庭学習全般(家庭学習Q&A等)について、また、各教科の家庭学習のポイントについては、各教科担任科が授業の時間に指導する。

・ 教科担任が学年別指導内容を熟知した上で教科指導にあたる。

○「小中連携による学力向上の取組」

・ 小中教員による授業研究会を各学期に実施(研究推進学習会・授業づくり学習会等)。

・ 小中教員による校内研修会を各学期に実施(対人スキルアップ・自殺予防教育・情報モラル教育等)。

・ 小学校「夏の教室」における中学生のボランティア教師体験。